

－相馬バイパスの整備効果（津波防止）－  
津波被害から地域を守った『相馬バイパス』

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、相馬市に押し寄せた津波を、国道6号相馬バイパスが堰き止め、浸水被害を防ぐ等、道路としての新たな機能が確認されましたのでお知らせします。

◆相馬バイパス概要

路線名：一般国道6号

区間：福島県相馬市程田～福島県相馬郡新地町駒ヶ嶺

延長：L=9.9km

供用年：平成20年3月

◆整備効果【津波防止】

- ①相馬バイパスの盛土構造が津波による浸水被害の拡大を食い止めました。
- ②津波被害を受けなかった相馬バイパス西側では田植えが始まりました。

問 い 合 わ せ 先

国土交通省 東北地方整備局 磐城国道事務所

電話番号：0246-23-2211

副所長 柴田 孝助（内線204）

調査課長 島田 正義（内線451）

発表記者會等：いわき記者クラブ、いわき記者会、いわき市広報広聴課  
南相馬記者クラブ

一般国道6号

# 津波被害から地域を守った『相馬バイパス』

- ①盛土構造が津波による浸水を食い止めた
- ②塩害被害を受けず田植えを開始

一般国道6号相馬バイパス



震災前の相馬バイパス



3月12日撮影 国土地理院

海岸線

津波浸水エリア

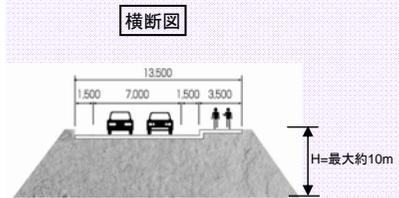
R6 相馬バイパス



一般国道6号 相馬バイパス L=9.9km

津波被害を受けなかったバイパス西側では田植えが始まった。

バイパス東側の津波被害の爪痕



横断面



5月26日撮影



5月26日撮影

平成23年3月11日の東日本大震災、相馬市にも津波が押し寄せました。国道6号相馬バイパスは、津波を堰き止め浸水被害の拡大を防いでくれました。

相馬市長 立谷秀清



相馬バイパスは、補修を要する被災があったものの、早期に仮復旧(3月18日)し、災害救助、被災地からの瓦礫搬出等に有効に機能した。



仮復旧し、通行可能となった相馬バイパス